

高松JC

わがLOMのシニアクラブ

ASPAC高松開催を目指して シニア・現役が一体となつて邁進



左から、フェルナンド・サンチェス・アリアスJC1会頭、有岡シニアクラブ会長、バラハンダス・ハリシエ・クマールJC1日本担当副会頭。京都会議LOMナイトにて。

社団法人高松青年会議所（高松JC）は、「さぬきうどん」でおなじみの四国は香川県の県都、各地会員会議所（LOM）です。皆様方におかれましては、ASPAC開催の国内BIDを獲得したLOMとして、当青年会議所をご認知いただいていることと存じます。

しかし一般的には、「高松」はまだまだ知られていないのが現状です。一昨年の秋、あるマスコミが首都圏の方々を対象に実施した香川県の認知度調査では、わずか14%という結果でした。

さらにさかのぼって1995年、ASPAC誘致を決議し、誘致運動のスタートを切った私たち。「高松ってどこ？」というところから始まるPRであったことは、皆様にも容易にご推察いただけることでしょう。

知名度のない一地方都市が成し遂げたこの快挙は、誘致決議にあたって、また誘致運動の過程において、さまざまな議論や事業を繰り返した結果、そして発足当時から脈々とメンバーを受け継がれた「わがまち高松」への思いの成果だと自負するもので

す。もちろんその思いに共感いただいた、日本はもとより世界中の皆さんの友情の賜物であることも忘れてはけません。それだけにASPAC高松開催に対する思いは、シニアであるわれわれにとっても、現役メンバーに負けず劣らず大きなものなのです。

今年度のASPACベナン大会において、国際BID獲得が予定されています。いよいよ本番の始まりです。まだまだやらなければならぬことがたくさんある中、われわれシニアクラブは、「高松青年会議所応援団」として常に、全力で現役メンバーをバックアップする所存です。順当にいけば、2006年度、高松の地に皆様をお迎えすることになります。その折には、本場のさぬきうどんをすすりがてら、地元を愛する気持ちが集まればここまでやれる！という、日本一小さい県の地方都市の実力を、ぜひご覧になってください。そして、第二、第三の高松の皆様方の中から出てくることを夢見ています。

◎高松青年会議所シニアクラブ会長

有岡 隆



日本JCセネターズクラブ総会にてPRする、三矢JC1エリアBセネター副会長。

ASPAC 日本青年会議所が所属するアジア・オセアニア・中東を含むエリアBの会議のこと。
Asia Pacific Area Conferenceの略。
BID 開催権